

【学年】 1年

【教科・単元】算 数「どちらが おおい」(全4時間)

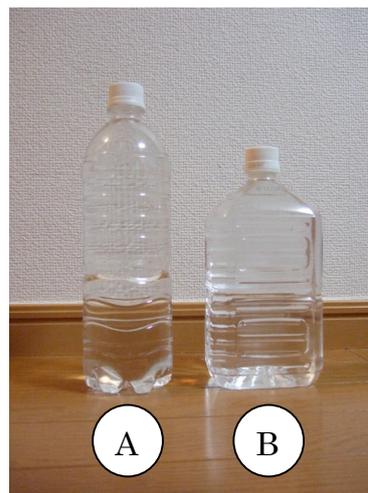
### 【実践内容】

#### ○単元目標

- 身近なもののかさに感心をもち、いろいろな方法を工夫して比べようとする。
- かさの数値化の必要性に気付き、単位の大きさを決めて、そのいくつ分でとらえる。
- 直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、かさを比べることができる。
- かさについての保存性や比較のしかた、任意単位による測定の方法を理解する。

#### ○実践の概要

- 1 2つの容器のかさを比較する方法を考える。
  - ・ 実際に形の異なる2つのペットボトルを準備し、かさの比較に関心を持つ。
  - ・ ペットボトルのかさの大小を予想する。
  - ・ かさの大小を比べる方法を考え、ノートに書く。
  - ・ 考えた比較の方法を、試す。
- 2 任意単位でかさを表す。
  - ・ 容器に入っている水のかさを、コップ単位として「いくつ分」で表す。



#### ★知的好奇心について

児童にとって、実物が目の前にあることと絵を見ることでは、知的好奇心に大きな差が出てくる。今回は、950mlの永細いペットボトルと、1000mlの短く太いペットボトルを準備した。目で見ただけではよくわからないこの長さや太さ、水の量の異なる2本のペットボトルを提示することで、意かさの比較に関心を持ち意欲を持って学習に取り組むことができると考えた。

### 【子どもの様子・反省】

AとBのペットボトルを見せることで、子どもたちは水のかさにとても関心を持ち、「調べたい」という思いを強く持つことができた。予想だけでも、色々な考えを出して水のかさについて話し合った。そのこともあり、調べ方を考えるときには、AをBに入れる直接比較、同じ入れ物に入れる間接比較だけでなく、任意単位を用いるカップに入れる方法も考え出すことができた。また、方法を話し合う中でも、同じ大きさのカップが必要なことについても意見を出し合い、より正しく調べる方法について考え、調べてみることもできた。また、調べた後には、任意単位を用いることで、どのくらい違うというのがはっきりわかってよかったという感想発表もしていた。

しかし、容器の数や時数の関係もあり、一人ひとりが調べてみることは難しく、代表の児童が比較をする形になってしまった。教材をいくつも準備することで、全員が体験できるような授業を行う必要があった。